

# FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌  
Vol.03



相模川ふれあい科学館  
アクアリウムさがみはら

# おかげさまで開館30周年

相模川ふれあい科学館アクアリウムさがみはら  
館長 坂野 浩一



リニューアルオープン後3年が過ぎました。散歩される地元の皆さんや、すっかり常連さんとなられたお客様からお声を掛けていただけるようになりました。

親子で、ご家族で、お友達同士でご来館され、展示水槽で生物をじっと観察し、餌付け体験では生き物たちに触れて歓声をあげ、特別企画展では生き物たちの新たな発見や驚きをされて、ものづくりワークショップで上手に作品を作りお子様の成長を感じられ、親水公園で水遊びなどをして、笑顔でお帰りになる姿を拝見して大変うれしく思っています。

おかげさまで、相模原市にお住まいの皆様方に加えて、圏央道効果もあって市外からも多くの皆様にお越しいただけるようになりました。当館は、平成29年11月には“開館30周年”を迎えることとなります。これからも“感謝と奉仕”の気持ちを持って、スタッフ一同が力を合せ、何度でも来たくなる施設にしていきたいと思います。



## Contents

相模川について .....	3
ミニ企画展示 .....	4
地域連携 .....	8
特別企画展	
◇南の国から .....	10
◇水族館BOY .....	12
◇イロトリドリの世界 .....	14
◇発電魚 .....	16
ふれあいトピックス .....	18
ものづくりワークショップ .....	21
イベント .....	22
スタッフ紹介 .....	23
指定管理者紹介ページ .....	23



# 相模川について

相模川は山中湖付近を水源とする約113kmの河川です。山梨県域では「桂川」、神奈川県域では「相模川」、相模湾に注ぐ河口付近では「馬入川」と名前を変えて呼ばれています。古くから神奈川県を流れ、相模湾へ続く「母なる川」として、豊かな自然環境だけでなく、歴史や文化を育んできました。いまでは毎年多くの人々が訪れる観光地になっているとともに、流域の人々にとって憩いの場所として親しまれ、飲料水、農業用水、発電用水、工業用水としても私たちの生活と深く関わっています。

そして、相模川を代表する魚と言えば「鮎」があげられますが、かつては「鮎河」と呼ばれ、春になると川底が見えないほど天然鮎が遡上していました。そのため昔から鮎を中心とした川漁が盛んで、豊かな自然環境で育った鮎は身がしまり、香りの良さから「御菜鮎」として将軍家にも上納されていました。川の流れる樹木や草花、鳥や昆虫、鮎をはじめとする魚たちを育てるだけでなく、流域の人々の生活も潤っていました。

近年、開発によってかつてのように川底が「鮎」で埋め尽くされる事は無くなってしまいましたが、「相模の大凧」、「納涼花火大会」、「泳げ鯉のぼり相模川」など相模川三大行事として川に親しむ事を目的とした行事や、相模川の自然環境を守る為に様々な取り組みが行われています。

当館では相模川に生息するいきものを中心に展示、飼育を行い、相模川の自然環境について普及啓発する役割を担っています。



# 内水面試験場との 連携内容

展示飼育部 波多野 順

当館での「ミニ企画展示」コーナーでは、これまで常設展示において紹介されていない生き物の展示や、相模川自体を巡る企画などを通して来館者の方々への情報発信を実施してきました。そこで平成28年度は、リニューアルオープン後、3年目を迎え、周辺施設との連携を通して、更なる情報発信の充実を目指し、神奈川県水産技術センター内水面試験場（以下内水面試験場）との共同展示を企画しました。

内水面試験場では、アユをはじめとする水産重要種に関する研究から、希少淡水魚であるギバチやホトケドジョウに関する研究を先駆的に実施されてきました。当館は、その生物に関わる情報や研究内容を一般の来館者の方々に分かりやすく伝え、相模川の自然について更に深く知って頂くことを連携の目的としました。具体的には、生体展示や研究成果の解説板などの展示更新を年6回のテーマに分けて実施し、サイエンスカフェなどの参加型イベントも併せて実施をしました。



## 展示変更内容

3～5月 「ピンチ！相模川の魚たち」



展示種 ギバチ・ホトケドジョウ  
内容 相模川での希少種を展示し、在来種の現状を紹介

5～7月 「アユの遡上と相模川における調査研究」



展示種 稚アユ  
内容 アユの遡上情報やフィールドでの調査研究の紹介

7～10月 「絶滅危惧種の種苗生産試験」



展示種 ミヤコタナゴ仔稚魚・成魚  
内容 天然記念物であるミヤコタナゴの人工繁殖に関する研究の紹介

10～12月 「ニホンウナギの生態と標識放流調査」



展示種 ウナギ稚魚・成魚  
内容 ニホンウナギのフィールド調査や現状を紹介

12～2月 「水辺ビオトープによる復元試験」



展示種 ギバチ稚魚・ホトケドジョウ稚魚  
内容 試験場内でのビオトープでの生態復元試験などを紹介

2～3月 「幻の丹沢ヤマメ」



展示種 ヤマメ  
内容 丹沢山系に於けるヤマメの調査や現状を紹介

## 内水面試験場コメント

### 神奈川県水産技術センター内水面試験場 場長 利波 之徳

神奈川県水産技術センター内水面試験場は、相模原市緑区大島の相模川のほとりにあります。

アユやワカザギ等の水産振興をする上で重要な魚種のほか、絶滅が心配されるミヤコタナゴやホトケドジョウ等の希少淡水魚についての調査研究を行っています。

アユでは、県内で放流される稚魚の生産技術の改良や、春に海から上ってくる天然魚を調査しており、希少淡水魚では、最近特に絶滅が危惧されているギバチを念頭に、



特別な技術が無くても作れる魚礁(魚の住処)を開発しています。当場の成果は、ホームページなどで公開していますが、相模川ふれあい科学館の企画展示やサイエンスカフェを通して皆さんにお伝えしています。

また、場内には見学コースを設けてあり、平日の9時から16時の間であれば、どなたでも自由に見学することができます。

見学コースには生態試験池という人工河川があり、開発中の魚礁や魚道の模型も見られるようになっていますので、近くにおいでの際は、是非お立ち寄りください。



## 親子で楽しめるサイエンスカフェ

### ●第1回

「よみがえれ相模川の魚たち ～アユから希少魚まで～」

日時：平成28年5月28日

講師：内水面試験場 主任研究員 勝呂尚之氏

### ●第2回

「貝に卵を産む魚 ～なぜミヤコタナゴは野生絶滅してしまったのか?～」

日時：平成28年8月26日

講師：内水面試験場 水産職員 吉田健一氏

### ●第3回

「ウナギが消える日 ～聞こえますかウナギからのメッセージ～」

日時：平成28年11月15日

講師：内水面試験場 専門研究員 戸井田伸一氏

### ●第4回

「戻ってこい! 相模川の魚たち ～希少淡水魚の未来～」

日時：平成29年1月7日

講師：内水面試験場 主任研究員 勝呂尚之氏

### ●第5回

「まぼろしの丹沢ヤマメ ～溪流魚の危機から学ぶこと～」

日時：平成29年3月11日

講師：内水面試験場 主任研究員 勝呂尚之氏





## イルミネーション

一般社団法人 相模原市観光協会  
代表理事 加藤 明

「地域の皆様をあとと驚かせたい！」相模原市観光協会と「地域貢献」を掲げている相模川ふれあい科学館とのコラボレーションで始まった「アクアリウム相模原イルミネーション」。リニューアルオープン後、平成26年から始まり、平成28年で早や3回目の開催となりました。例年11月中旬に点灯式を行い、1月の中旬まで水郷田名を明るく灯します。点灯式では、派手に花火を打ち上げ、ミニコンサートなどもあり、施設への無料入館も実施、科学館屋外広場は、多くの人で賑わいます。施設内に飾るイルミネーションも年々増えており、平成28年は、モミの木横の「アーチ型イルミネーション」も

登場しました。今回設置のお手伝いをしてくれたのは、市観光協会に職場体験で訪れていた上溝中学、麻溝中学の生徒さん達です。おかげさまで、地域で作り上げた「イルミネーション」となりました。屋外広場の木々に彩られるイルミネーションは非常に幻想的で、水面に写る「逆さイルミネーション」も必見です。



## 科学館まつり

当館の屋外広場では年間を通じて科学館まつりを実施しています。巨大なふあふあクジラ、桜美林大学 桜風エイサー琉球風車による『エイサー演舞』、ミニSLなど、お子様が楽しめるイベントを実施しました。水郷田名観光協会様にご協力頂き模擬店も出店しました。





## 相模川ふれあい科学館と 「オオサンショウウオ」

### 最初にやってきた オオサンショウウオ

オオサンショウウオが相模川ふれあい科学館にやって来たのは、オープンした昭和62年になります。この年、岐阜公園内水族館（現在は閉館）で飼育されていた15個体内、5個体が当館へ寄贈されました。これが当館でのオオサンショウウオの展示と飼育の歴史の始まりになります。



### 緊急保護個体

その後、平成18年に神奈川県川崎市で保護されたオオサンショウウオ1個体が当館へ持ち込まれ、2度目の飼育が始まりました。オオサンショウウオは本来関東には生息していないため、ペットとして違法飼育されていた個体が逃げ出したのかもしれませんが。

しかし、残念ながらこのオオサンショウウオも、平成27年11月14日に死亡してしまいました。

### やっぱり会いたい オオサンショウウオ

保護個体のオオサンショウウオが死んでしまったから、お客様から「オオサンショウウオはどこにいるの?」というお声を多く頂きました。オープン当

初より、皆さまに愛されていたのだということがよく伝わってきました。オオサンショウウオは本来、岐阜県より西に生息しており、関東地方の方々には馴染みのない生き物でもあります。しかしオオサンショウウオは日本の固有種であり、素晴らしい生き物でもあります。関東地方では、なかなか見ることの出来ない貴重な生き物をまた、是非ともこの当館で展示し、その素晴らしさをお伝えすることは非常に意味深いことだと思いました。

そこで、今回は、様々な関係者皆さまのご協力のもと、世界淡水魚園水族館（アクア・トトぎふ）で飼育されていた個体をお借りして、平成28年9月27日より展示出来ることになりました。是非とも素晴らしい生き物でもある、オオサンショウウオをご覧頂ければと思います。

### 現在展示している オオサンショウウオの個体情報

- 性別：オス
- 全長：85cm（平成28年3月14日測定時）
- 体重：5.5kg（平成28年3月14日測定時）
- 年齢：27歳（平成28年9月20日現在）

- 出生地：広島県広島市安佐動物公園
  - ▷安佐動物公園にて繁殖した個体（両親のオス・メスとも広島県での保護個体）
  - ▷1989年9月2日に産卵
  - ▷1989年10月14日に孵化
  - ▷2004年6月16日に世界淡水魚園水族館へ移動



# 連携

## 近隣小学校・幼稚園・保育園との取り組み

### 相模川フィールド学習

相模川にて相模原市立田名小学校 3年生徒たちとフィールド学習を行いました(5/31、7/14)。自分たちの身近にある「相模川」は一体どんな川なのか。飼育スタッフと川の環境や生態について学びました。生き物がいる場所、何を食べているのかなど、実際に川に入り、生き物に触れながら学習しました。5月、7月の2回実施する事で、季節での川の環境や生き物の変化について観察する事が出来ました。



### 稚鮎の放流

田名幼稚園(学校法人宗祐寺学園 田名幼稚園)の園児たちと相模川にて「稚鮎の放流」(5/31)を行いました。飼育スタッフが鮎はどういう魚なのかを説明し、鮎についての理解を深めました。稚鮎の入ったバケツを渡すと、緊張しながら川に放流していました。川に元気に泳いで行く鮎を見えなくなるまで見送っていました。



### 田んぼ

#### 【田名幼稚園】

田名幼稚園の園児たちと屋外にあるふれあい田んぼにて「田植え」(6/10)、「稲刈り・稲架がけ」(10/25)を行いました。苗からお米が収穫されるまでの流れを体験する事により、普段何気なく食べているお米作りの大変さや、大切さを学びました。



#### 【友愛保育園】

友愛保育園の園児たちと屋外にあるふれあい田んぼにて田植え(6/7)、稲刈り・稲架がけ(10/18)、脱穀・風選(11/2)を行いました。泥だらけになりながら植えた小さな苗が、稲刈りをする頃には自分たちと同じ位の高さになっていることに驚いていました。



### 花苗の植え付け

友愛保育園(社会福祉法人 友愛保育園)の園児たちと当館の敷地内にある、さかなの形をした花壇に6月にはニチニチソウ、サルビア、11月にはヴィオラ、アリッサムを植えました。花の名前を覚えながら一生懸命苗を植えて、咲いている花を嬉しそうに眺めていました。



## 近隣施設との取り組み

### ● ポニー乗馬・ミニ馬車乗車体験 ●

相模原麻溝公園ふれあい動物広場(公益財団法人ハーモニセンター)にご協力頂き、当館屋外広場にて「ポニー乗馬・ミニ馬車乗車体験」を実施しました(12/18、3/5)。はじめて乗馬を体験するお子様が多く、ポニーの匂いや、歩く際の振動、息遣いを感じながら乗馬を楽しみました。また、ミニチュアホースが引くミニ馬車には、親子で乗車出来る為、乗馬が怖いお子様も安心して乗車していました。



### ● いきもの観察ツアー ●

県立津久井湖城山公園にて、相模原麻溝公園ふれあい動物広場(公益財団法人ハーモニセンター)のボランティアキッズと「いきもの観察ツアー」を実施しました(10/16)。城山公園の職員(公益財団法人神奈川県公園協会)にもご協力頂き、園内を歩きながら、山の動植物を観察しました。普段は見過ごしてしまう小さな昆虫や、独特な匂いがする葉っぱを嗅いだりしながら自然とふれあいました。





特別  
企画展

# 南の国から



## エラブウミヘビ



## ～琉球諸島のいきものたち～

日本は東西と南北にそれぞれ3,000kmずつ長い国土を持ち、多様な自然を育んでいます。沖縄県を構成する琉球諸島の亜熱帯の海には、色とりどりの魚たちが、まるで花が咲いたかのように泳ぎ、海中の熱帯雨林と呼ばれるほど多くの種類の生き物が生活しています。

また、海ばかりが目されがちな沖縄の自然ですが、全長13.8kmの福地川をはじめ多くの川が存在し、本州では見られない貴重な魚たちが暮らしています。琉球諸島の海と川でみられる生き物たちを紹介しながら、その自然を育む秘密に迫り、またその大きな自然が育ててきた文化も触れることが出来た企画展となりました。





展示飼育部

竹本 淳史

20代前半から約7年を過ごした沖縄には、人一倍強い思い入れがあります。海・川・山・人、そのどれをとってみてもとても魅力的な場所でした。

ただ、そこにいるとそれが当たり前のように感じ、その良さがわかるようになってきたのは、ごく最近のことです。

この企画展を立ち上げるときに、沖縄で知った生き物のこと、自然のこと、人や文化のことを、どうやって伝えようかと考えていました。観光地として、毎年多くの方が訪れる場所でもあり、魚についてもカクレクマノミやチンアナゴなどは、かわいいけれど、誰もが知っている種類です。かといってマニアクに走りすぎるのも良くないし…これは意外に難しいテーマでした。

考えた結果、私は沖縄の川の生き物を多く展示することに決めました。あまり知られていないけれど、沖縄の川には、日本でも珍しい、なかなか見られない生き物がたくさんいるのです。カラフルなボウズハゼの仲間や、巨大なオオウナギ、タナゴに似たタナゴモドキなどの生体を展示しました。また、生体こそ展示できませんでしたが、リュウキュウアユについては沖縄本島で一度絶滅してしまったものを復活させる取り組みなどを紹介しました。ただ、終わってみればまだまだ紹介できていないものがたくさん、たくさんありました。

さて、南の国から～第2章～を考えないと！

…耳を澄ませば聞こえてくるのは波の音、遠くの方には指笛、三線。ああ～沖縄そばが食べたい…。



# Topics

トピックス



実物大のジンベエザメと写真を撮ろう  
期間中毎日実施



桜風エイサー琉球風車 エイサー体験  
3月20日、4月30日に実施

特別  
企画展

水族館BOY



## マニアな世界へようこそ…!

飼育員は、水族館の“主役”である生き物たちが毎日元気に生活できるようにお世話する役目、いわば“わき役”だったはずなのに！最近では生き物を差し置いて飼育員が人気者、主役になってしまうこともしばしば。飼育員への注目度が高まっています。

では、そんな飼育員は毎日どのように生き物のことを見て、接しているのでしょうか？ 実際、飼育員はこだわりの強い個性的なマニアばかり。生き物のことが好きで好きで仕方ないのです。この企画展では、そんな飼育員の心を驚掴みにした生き物をご紹介します！



展示飼育部  
中尾 智行



### 官能的なほど“好き”な世界へ。

生き物を『好き』の一言で言い表すことができても、どこが、どう好きか？伝えることは非常に難しいと痛感しました。例えばオウムガイの好きなどところ。

- 独特な形の頭（“頭巾”というそうです。帽子のひさしのような、肉厚で、少し柔らかい）
- 貝殻の曲線美（側面から見たときのフラクタル感、心がそのまま巻き込まれて吸い込まれていくような…ああ！好き！特に頭巾の端から少し上の所の曲線は特にいとをかし）
- 私はイカやタコの仲間が好きなので（イカやタコは非常に知能が高く、好奇心旺盛な生き物です。感情等に合わせて体色を変えたり、沢山の腕を器用に動かして独特のポーズをとったりします。また、大きな分類でいうと貝の仲間です。祖先にあたるオウムガイが貝殻を背負っていると、貝の仲間というのもうなずけます。現在でもアオイガイやタコブネといったタコは自分で貝殻を作りますが、この貝殻がオウムガイの作る貝殻と形がよく似ているんです！ロマンだなあ〜）など。

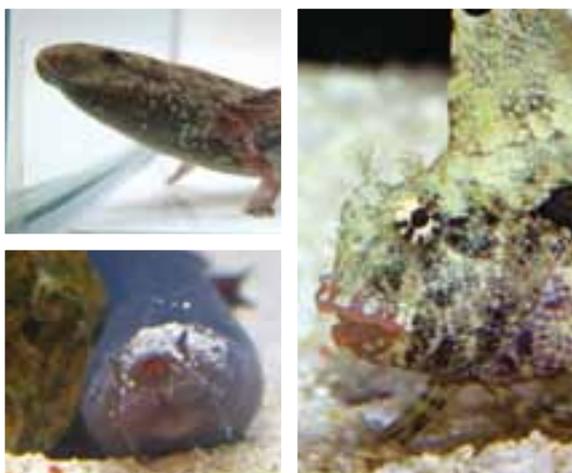
まだまだ、まだまだ、沢山あります。

そして、総合的にまとめると『好き』なんです。

この世界観は非常に個性的な上に、マニアックで、普段の展示ではなかなか伝えきれない部分です。

また、無事に皆様をマニアの世界へ導けるように、見てほしいポイントをギュギュっとまとめたワークシートも用意しました。

「うーん、たまらんね〜」と、思っただけでしたら、幸いです。



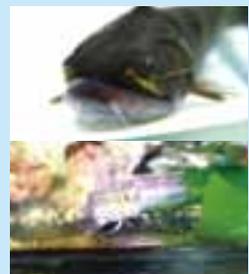
## Topics トピックス

調子に乗って好きな生き物を集めに集めたら、  
展示種類はなんと29種！！  
はっきり言って多すぎです（笑） 毎日の管理に結構苦労しました…。

- ・ナンヨウハギ
- ・カクレクマノミ
- ・チンアナゴ
- ・ハリセンボン
- ・アメリカンロブスター
- ・アマゾンツリーボア
- ・テンニンチョウ
- ・パンケーキキリクガメ
- ・エレファントノーズフィッシュ
- ・バトラクスキャット

- ・オニダルマオコゼ
- ・モンツキカエルウオ
- ・ヤエヤマギンポ
- ・スターリーブレニー
- ・トッケイヤモリ
- ・エボシカメレオン
- ・デグー
- ・ワラスボ
- ・ヨツメウオ
- ・マルメタピオカガエル

- ・スレッドフィンパラダイス
- ・サカサクラゲ
- ・セノテツルモヅル
- ・アフリカンロックシュリンプ
- ・ヌタウンギ
- ・オウムガイ
- ・オニイソメ
- ・ユムシ
- ・グレーターサイレン



特別  
企画展

# イロトリドリ の世界展



## ～カラフルな生物がイロイロ～

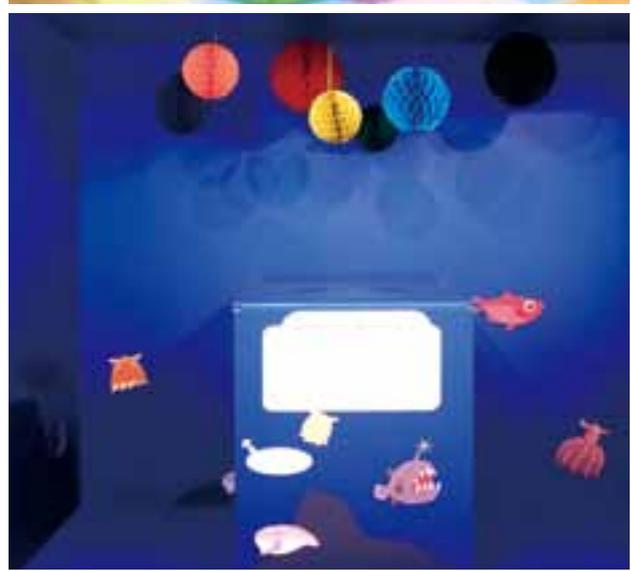
この世界は様々な色であふれています。自然界にも色とりどりの生き物たちがいますが、中には不思議なほど色鮮やかな生き物たちもいます。生き物たちの体の色にはそれぞれ意味があります。一見するととても派手な体色でも、その生き物がすむ環境では目立なくなる“保護色”、カラフルな色で異性にアピールする“認識色”、わざと目立つ色で毒をもっていることを知らせる“警告色”など、生き残るための戦略の一つとして“色”があります。イロトリドリの世界展では、色鮮やかな生き物たちを展示するとともに、ただカラフルなだけではない、色をつかった生き残るための生き物たちの工夫をご紹介します。



企画者  
コメント  
Comment



展示飼育部  
亀ヶ谷 千尋



南国の魚たちが入った水槽の前で、「カラフルできれいだね～」という言葉をよく聞くことがあります。では「どうしてこんな色をしているんだろう?」と思ったことはありませんか? 生き物たちの中には私たちの想像を超える程、奇抜でカラフルな生き物があります。その色は、私たちに驚かせるためにあるものではありません。そこには厳しい自然の中で生き抜くための生き物たちの様々な工夫があるのです。

この企画展では、生き物たちの体の色のヒミツをただご紹介するだけではなく、実際にそのヒミツを体感していただけるよう、ハンズオン展示にも力を入れました。例えば、深い海には赤い色をした魚が多いのですが、その理由を深い海の青色(のアクリル板)を通して赤いボールを見ることで実感してもらおう展示や、光の三原色と色の三原色の違いを実際に色や光を混ぜてみてもらいながら説明する展示など、たくさんのハンズオン展示を作りました。

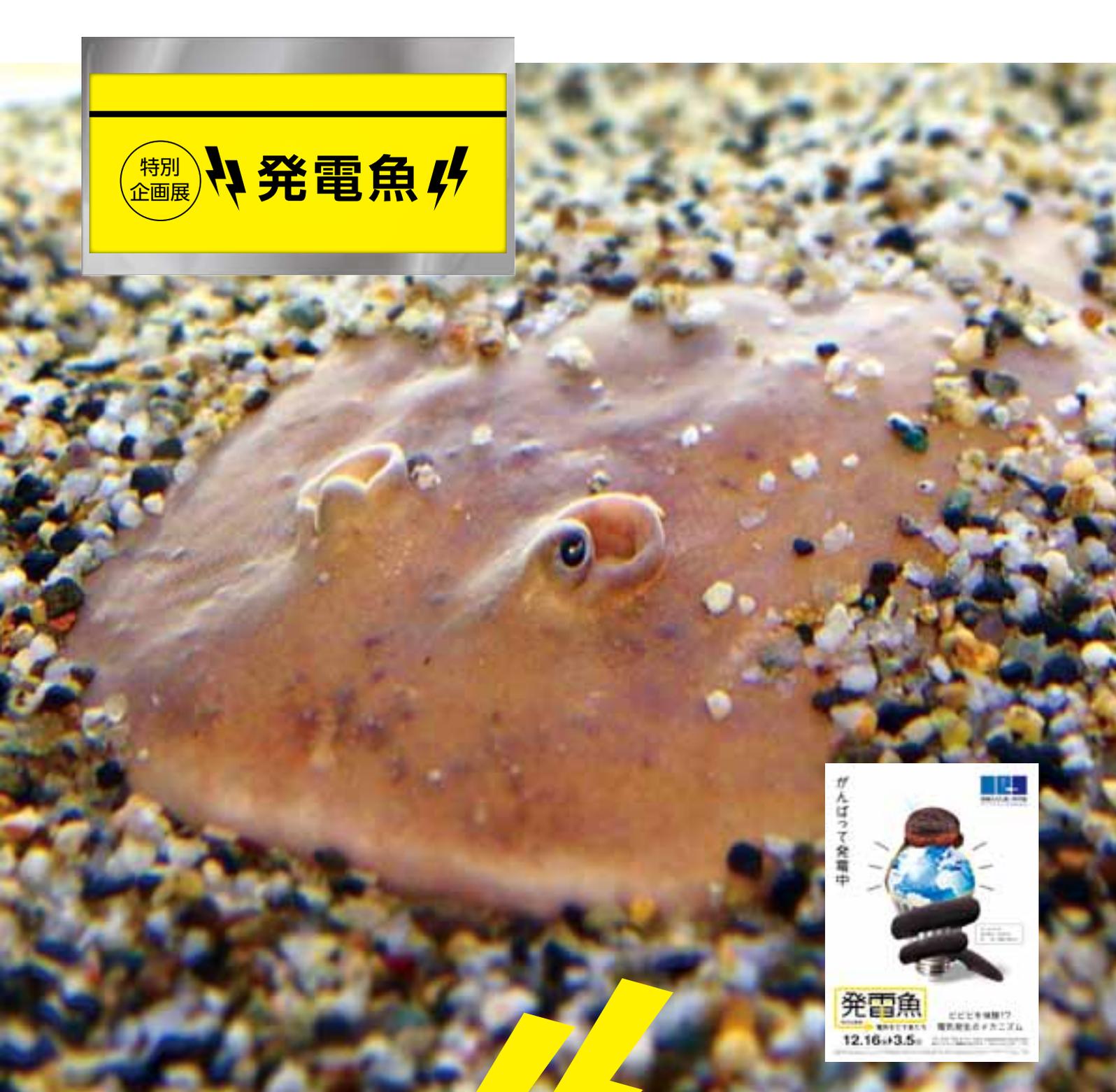
今までの企画展とは異なり、ハンズオン展示も重視した内容にしたので、準備しているときは、どこまで皆さんに理解してもらえるか、楽しんでもらえるか不安が多かったのですが、いざ企画展が始まってみると、楽しんでハンズオン展示に参加されている方が多く、挑戦してみたかいがあったとうれしく思いました。

イロトリドリな生き物たちには、色々な理由がある! …とはいえ、分かっているながらも、宝石のように輝くヤドクガエルや、まるで蛍光色のような色をしたヒルヤモリなどを見ると“なんでこんな色になったんだろう…”と思わずにはいられません。本当に、生き物というのは不思議なものですね。



特別  
企画展

# 発電魚



## 電気を出す魚たち

電気は、私たちの生活になくてはならない大切なライフラインの一つです。しかし、私たち人間が電気を利用するようになったのは、この150年足らずのことです。実は、私たち人間よりずっと昔から、電気を自ら生み出し、利用してきた生き物たちがいます。それが、「発電魚」の仲間たちです。

皆さんは、発電魚と聞いて何を想像されるのでしょうか。多くの方がデンキウナギを思い出されるのではないのでしょうか。この発電魚、実は、南米大陸やアフリカ大陸の淡水域に生息するものを中心にとても種類が多く、更には海にも電気を出す魚たちがいるのです。発電魚を通して、生き物が進化の過程で獲得したその能力や生態を知って頂き、身近な電気についても楽しく学べる企画展を目指しました。





展示飼育部  
波多野 順

企画者  
コメント  
Comment

発電魚としては、やはりデンキウナギが有名だと思います。良くテレビなどでも取り上げられて、攻撃のために出す強い電気で痺れる映像などもご覧になったことがあるのではないのでしょうか。そういったためか、電気を出す魚は、相手を痺れさせるというイメージが強いのですが、実はこのような強い電気を出す魚はごく一部であり、「強電魚」と呼

ばれます。電気を出す魚で種類が多いのは、弱い電気しか出すことの出来ない「弱電魚」というグループなのです。この弱電魚達は、弱い電気を出して周りをレーダーのようにして探ったり、相手とのコミュニケーションツールとしてもこの電気を使用したりしているのです。ただ電気は目には見えないので、発電魚がいくら電気を出していてもその様子が分かりません。そのため、電気信号をとらえてグラフとして見えるようにする機械や、電気信号を音に変換して聞こえるようにする装置などを用意して、発電している様子をご紹介出来るよう工夫をしました。「発電魚」展を企画して、私自身知らなかったことやまだまだ面白い生態が隠されていることが分かりました。個人的にも思い出に残る企画展となりました。



ふれあい Topics 01 マンスリー水槽

1月 縁起の良いいきものたち



ミシシッピーニオイガメ 金魚(丹頂)

縁起物の“鶴と亀”になぞらえて、金魚の丹頂と富士山のような甲羅のミシシッピーニオイガメを展示しました。

2月 寒い日には温泉



トウキョウダルマガエル

カエルが水につかる様子を温泉に見たてて、ユーモラスに紹介しました。

3月 涙の季節



ナミダクロハギ

それぞれの学校では卒業式を迎える3月、別れの涙を流す季節です。目の下の模様がまるで涙を流しているようにみえるナミダクロハギなどを展示しました。

4月 春をつげるもの



シロウオ ヒオウキガイ(ウグイスガイ)

私たちは様々な形で春のおとずれを感じます。例えばウグイスの鳴き声や、春告魚と呼ばれるシロウオなど春を告げる生き物を展示しました。

5月 鯉は登って龍になる



アジアアロワナ

鯉のぼりが悠々と空を舞う5月。鯉は滝登りをして龍へと変身しますが、言い伝えの舞台である中国で龍魚と呼ばれるアジアアロワナを展示しました。

6月 雨の日も楽しく♪



アフリカツメガエル

気分もどんよりとしがちな梅雨の季節に、元気いっぱいな生き物を見て、皆様に楽しい気分になってもらおうと、水槽の中で雨を降らせ(予想以上に豪雨となっていました(笑))、一生を水中で暮らすアフリカツメガエルを展示しました。アフリカツメガエルは現在でもふれあいワゴンで絶賛活躍中です!

7月 ☆雑木林の女子会☆



カブトムシ グラントシロカブト  
コーカサスオオカブト ヘラクレスオオカブト

カブトムシのメスは、どうしてもオスの人気に陰れがち。ゴキブリと変わらないと言われてしまうこともあります。メスにだって魅力は沢山あるんです!!!ということを知っていただきたく、あえてメスのみを展示しました。

8月 昆虫の宝石!



パパアキンイロクワガタ

夏の昆虫クワガタ!クワガタと言うと“強い”“カッコいい”というイメージがありますが、中には“美しい”クワガタもいます。まるで宝石のようなクワガタを紹介しました。

9月 海の月



カラージェリー

海の中にも月があります。クラゲは漢字で「海月」とも書きます。水中のお月見をイメージして展示しました。

10月 水中のハロウィンnight



レッドフィンペーシュカショーロ

ハロウィンにちなんで、ヴァンパイアのような牙を持つ、カショーロを紹介しました。水槽の飾りつけや外装にもこだわり、水槽の横には仮装グッズを置き、カショーロと写真を撮れるよう工夫しました。

11月 食欲の秋! Japanese テンブラ



マハゼ

私は catch & eat の釣り人なので、秋になるとどうしてもハゼの天ぷらが食べたくて仕方ない...そんな気持ちを前面に押し出した展示となりました。ハゼももちろん自ら釣ってきました!

12月 水中スノードーム



ネオンテトラ

王道のクリスマスイルミネーションで、ロマンティックな雰囲気再現すべく、小さくて綺麗な熱帯魚の王様ネオンテトラを約1000匹も展示しました!



「こっつ!!」そう、このポイントがわかると、何倍も生物のことが楽しく観察できるようになるコツを私たちは知っています。ただ、表向きの解説文章だけじゃなく、実際の行動を目撃してこそ伝わるものがあります。この一年は、みなさんと一緒に体験できる水槽を目指した年でした。

約2か月ごとの更新を行いました。そのなかでも思い出深いのは「ヤマグチバイ」の実験でした。バイ貝の名前で食用にもなっていますが、普段は砂の中に隠れて出てきてくれません。そこで、実験の時間にはエサを使って出てくる場所をリアルタイムで観察していただきました。海外では「ゾンビ貝」ともいわれるヤマグチバイ、その名の通り、まるで地中から這い出して襲ってくるゾンビのように、もぞもぞと砂の中から出てきてエサに食らいつく姿からは目が離せませんでした。そうです。一番楽しんでいるのは企画している私かもしれません。(展示飼育部：竹本)

- 的の中心を狙え! テッポウウオ \_\_\_\_\_ 12月26日～ 2月14日
- 淡水カレイとヤマグチバイ \_\_\_\_\_ 2月16日～ 4月10日
- 強烈パンチ! モンハナシャコ \_\_\_\_\_ 4月12日～ 5月29日
- 赤い魚は目立っちゃう? アカマツカサ \_\_\_\_\_ 5月31日～ 7月10日
- 眠るタカサゴ \_\_\_\_\_ 7月12日～ 9月25日
- オジサンのはげはなんのため? \_\_\_\_\_ 9月27日～11月20日
- カエルアンコウのさかな釣り \_\_\_\_\_ 11月22日～12月25日
- テッポウウオの水鉄砲 \_\_\_\_\_ 12月26日～ 1月29日
- キスする魚? キッシンググラミー \_\_\_\_\_ 1月31日～ 3月12日



海に潜ったときに、巨大なジンベエザメを見ると感動すると思います。ただ、私はもっともっと小さな生き物にこそ心引かれてしまうのです。

9月の下旬から展示を行ったヤドカリは、以前からやりたいテーマのひとつでした。メインは野球ボールくらいの大きさがあるソメンヤドカリで、イソギンチャクと共生することが特徴です(このイソギンチャクがけっこう痛いのです…)。ただ私のお気に入り、貝殻も含めて1～2センチほどしかないスベスベサンゴヤドカリでした。サンゴ礁の海で普通にみられる種類で、水槽にも200匹ほど入れていました。じっと観察してみるとちょこちょこ動く姿が愛らしく、オレンジ色と青色の模様が入った目もとでもきれいでした。

やっぱり、小さいものはいいですねえ。(展示飼育部：竹本)

- 福を呼ぶ魚 ハリセンボン \_\_\_\_\_ 1月19日～ 4月10日
- アカエイの体をよく見てみよう \_\_\_\_\_ 4月12日～ 7月17日
- ゆりかごは口の中 クロホシシモチ \_\_\_\_\_ 7月19日～ 9月25日
- ソメンヤドカリとイソギンチャク \_\_\_\_\_ 9月27日～12月18日
- 酉年の魚たち \_\_\_\_\_ 12月20日～ 3月12日

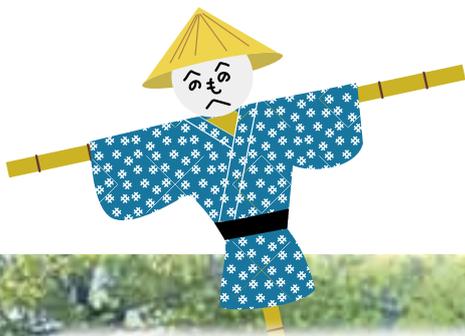
小川の実験観察テーブルを担当して2年目。昨年に引き続き「身近な生き物の意外と知られていないこと」を皆さんに知ってもらおうと水槽作りをしました。一番人気があったのはアマガエルの展示でした。アマガエルというと緑色のイメージが強いですが、実はアマガエルは体の色を変えることができます。周りの環境によって、茶色や灰色、緑の地に茶色の斑模様など、様々な体色になります。苔や草のある緑色の環境では緑色に、土や木の枝のある茶色の環境では茶色になる、ということを実際的水槽で見ていただきました。アマガエルは他の生き物に見つからないようにするため、周りの環



境に体の色を似せるのですが、あまりに見事に同化しているため、全てのカエルを見つけだせた方はいなかったのではないのでしょうか。身近な生き物のことで驚いてもらえると、とても嬉しいものですね。

(展示飼育部：亀ヶ谷)

- 1月 【ドジョウはおならをする?】  
生物種：ドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、アカザ
- 2・3月 【ニホンザリガニとアメリカザリガニ、なにがちがう?】  
生物種：ニホンザリガニ、アメリカザリガニ
- 4・5月 【トカゲじゃないよ、イモリだよ】  
生物種：アカハライモリ、ニホンカナヘビ
- 6～9月 【アマガエルはなににいる?】  
生物種：ニホンアマガエル
- 10月 【陸でも水でも生きられる?】  
生物種：アカハライモリ、メキシコサラマンダー
- 11・12月 【魚は水にうかぶ?しずむ?】  
生物種：オイカワ、ヒガシシマドジョウ
- 1・2月 【カメとスッポンのまちがいさがし?】  
生物種：ニホンスッポン、ニホンイシガメ



# ふれあい 田んぼ探検隊



展示飼育部 波多野 順

## 1 田植え

まずは、泥に慣れるところから始め、泥の感触や匂いなどを確かめながら徐々に…。とっていたら皆キャーキャー言いながらも楽しそうに泥の中を歩いていました。そしていよいよ田植えです。苗をつまみながら、慣れない足場に悪戦苦闘。ドロドロになりながらも植え終わったあとは充実した顔！



## 2 観察会

この頃には、すっかり稲が成長をして稲穂ができていました。そして何とタイミングよく稲の花が咲いていました。当日はあいにくの大雨で、外での観察は出来ませんでした。室内で稲の花を観察しました。また普段食べているご飯って何粒くらいあるのか、一合分のお米をみんなで頑張っって数えました。その数なんと6,437粒！よく数えたね！



## 3 稲刈り・稲架け

稲が黄金色になり、「首を垂れる稲穂かな」という通り、稲穂が実り、稲刈りを実施しました。みんなで刈った稲を、稲藁で縛って、天日に干す、「稲架け」を実施し、沢山の稲の束が出来ました。みんなドヤ顔かな。



相模川ふれあい科学館のある水郷田名地区は、江戸時代に江成久兵衛氏らにより、相模川から水を引くための烏山用水が作られ稲作が盛んな地域でもありました。

当館の施設内には、棚田式の田んぼが4枚あり、「ふれあい田んぼ」と称して、田植えから稲刈り、そしてお米を頂くところまでを経験することが出来るようになっています。

リニューアルをしてから、3回目のふれあい田んぼ探検隊。一般公募で集まった小学生と一緒に今年もお米が出来るまでと一緒に体験しました。

## 4 脱穀・風選

天日干しをした稲から、機械を使ってお米の粒を取る「脱穀」。慣れない機械も、しばらくするとあら上手。子供たちって本当に器用ですね。そして、実の入っている粒とそうでない粒を分ける風選も、機械を使って体験しました。最後にふれあい田んぼで収穫出来たお米を量ったら、何と11キログラムもありました！



## 5 収穫祭

選別したお米の粒を臼搥りで穀をとリ、瓶と棒で糠を落とす方法で精米を体験しました。思っていたより大変で、お米を食べる大変さも分かったかな。そしてお待ちかねのふれあい田んぼ米の実食！おにぎりにしましたが、何も具がなくなっって本当に美味しかったです。みんなのもりもりお米を食べる姿がとてもたくましく見えました。今回は利き米と称して、違う種類のお米も味わい、お米の持つ魅力も伝わったかな。

5月から始まったこの企画も今回で終了です。お米は日本人と切っても切れない関係があり、大切な主食です。食べ物を作る喜びを感じてもらえたら大成功です！



隊員からの一言

波多野：また来年も待っているよ！

個人的にも田んぼは憩いの場でした。

鈴木：美味しいお米と一緒に作りましょう！

押田：打倒コシヒカリ。

竹本：次は隊長としてがんばりますっ!!!!!!!!!!!!!!



# 毎日、絶賛開催中!

## ものづくり ワークショップ

普段、家で絵を描いたり工作をすることはありますか？材料を揃えたり作り方を調べたり、なかなか準備が大変ですよね。そんなときは是非、当館に来てください！ほぼ毎日、ものづくりワークショップを開催しています。川や海にいるいきもの、館内で展示されているいきもの等をモチーフに、様々な材料を組み合わせながら、皆様楽しんでいただけるプログラムを日々開発中です。「こんな工作があったらいいな」「こういうの作ってみたい」というものがあれば、是非教えてください。「過去にやってたあの工作、またやりたい！」なんていうリクエストも、お待ちしております！ワークショップ参加中の皆様の笑顔が、何より嬉しいです。小さなお子さまから大人の方までどなたでもご参加いただけますので、皆様是非、多目的室2を覗いてみてくださいね♪ご参加お待ちしております。



### 【実施プログラム】

プログラム名	実施期間	参加費	プログラム名	実施期間	参加費
とびだすトロピカード	3月 1日～ 5月13日	無料	いきものフラッグ	11月 1日～12月22日	無料
たまごでフィッシュ	3月19日～ 4月24日	有料	ストーンアート	11月 3日～11月27日	有料
ブクブクミニすいぞくかん	4月29日～ 7月 9日	有料	おさかな消臭剤	12月 3日～12月25日	有料
おさかなブカリ	5月17日～ 7月15日	無料	空を飛べ!いきもの風づくり	12月26日～ 1月15日	有料
川のハンカチ	7月16日～ 9月11日	有料	おきあがりこぼし	1月10日～ 2月17日	無料
すいすいボシェット	9月 1日～10月28日	無料	水辺のキーホルダー	1月21日～ 3月12日	有料
おさかなきんちゃく	9月17日～10月30日	有料	トントンずもう	2月21日～ 3月24日	無料



# イ ベ ン ト

施設やフィールドで  
様々なイベントを実施しています。

## 親子で川釣り体験ツアー

当館ではシーズンを通じて様々なイベントを実施しております。なかでも人気が高いのが釣りイベントです。「親子で川釣り体験ツアー」では、川的环境や生き物について解説するとともに、「釣りをしてみたいけどどうしたら良いかわからない」という方に、当館釣り好きスタッフが、分かりやすくレクチャーをしました。釣り初体験の小さいお子様が多く、釣れるかどうかドキドキしながらスタートしましたが、大半の方が釣る事が出来、なかには30cm程の大物を釣り上げたお子様もいて、とても喜ばれていました。



# 企 業 タ イ ア ッ プ

## 昆虫観察ツアー

さるびあタウン（一般財団法人 町田市勤労者福祉サービスセンター）の加入者を対象に「昆虫観察ツアー」（7/23）を実施しました。カブトムシや、カマキリ、セミ、トンボ等の昆虫を中心に観察する事が出来ました。トラップを仕掛けてカブトムシを採集したのははじめてという参加者が多く、トラップの作り方など熱心に耳を傾けていました。



## お魚先生のガイドと水辺のランプ作り



あじさいメイツ（公益財団法人 相模原市勤労者福祉サービスセンター）、ハートピア（公益財団法人 厚木市勤労者福祉サービスセンター）の加入者を対象に「お魚先生のガイドと水辺のランプ作り」（7/27、30）を実施しました。館内を飼育スタッフの話を聞きながら見学し、ガラスのランプに好きな生き物の絵を描いてもらいました。夏休みという事もあり、「親子で何かを作ったり、体験したりするイベントに参加したかった」という感想が多く、定員を大きく上回る応募がありました。

## 出張水槽

当館では出張水槽展示を行っています。「ふれあいミニ水族館」と称して、生き物と直接ふれあえるタッチングコーナー、当館にて定期的に行っている特別企画展から選定した生き物などを観察出来る水槽展示をしています。

### 相模原市民桜まつり

市役所さくら通りで開催された「相模原市民桜まつり」(4/2)に出展させて頂きました。多くのお客様で賑わう中、特別企画展示、ワークショップの告知をしました。

### 夏のやまとおもしろ科学館 2016

「夏のやまとおもしろ科学館 2016」(8/6)ではザリガニ、カブトムシのタッチングコーナー、当館での特別企画展示「水族館BOY」で展示する生き物などを中心に多くの方に観て頂きました。やはりカブトムシ、クワガタムシの人气が高く、「家でも飼っている」と話している子どもたちが多くみられました。また、展示していたユムシに興味を持つ方が多く、飼育スタッフの話をお聞きながら不思議そうに眺めていました。



### 冬のやまとおもしろ科学館 2016

「冬のやまとおもしろ科学館」(12/5)では特別企画展示「発電魚」に展示するエレファントノーズフィッシュを中心に、アオダイショウ、クサガメ、イシガメ、アメリカザリガニのタッチングコーナーなどを展開しました。アメリカザリガニのオスとメスの見分け方や、持ち方などの解説に熱心に耳を傾けていました。



## New staff introduction

新任スタッフ紹介



中尾 智行  
(展示飼育部)



黒川 恵美  
(展示飼育部)

三度のメシより釣りが好き、特にサクラマス、シーバス、イカ釣りが大好きです。学生時代は釣り具店でアルバイトをしていました。生き物の事だけでなく、釣りの質問もお待ちしています。

私は生き物もスキですが、人前で話をするのも大スキです！イベントでは、ほりきりすぎて大スベリをすることもありますが！私がイベントをしていたら温かい目で見てくださいね！

現在のスタッフ内訳 展示飼育部5名/営業管理部4名  
施設管理部1名/受付1名

### 【運営会社のご紹介】

平成26年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記の水族館運営業務にも従事しています。

### 新江ノ島水族館



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、「わくわくドキドキ冒険水族館」をコンセプトにしています。



<http://enosui.com/>

### 世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ



日本や世界の淡水域に生息する生物をご紹介します。「世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。



<http://aquatotto.com/>

■ アクセス Access



無料駐車場有  
98台

電車  
バス  
ご利用 JR横浜線 相模原駅南口より 神奈川中央交通バス  
「水郷田名」行き 「ふれあい科学館前」下車 徒歩0分

車を  
ご利用 国道16号線 相模原駅入口 上溝バイパス 上溝 県道54号 相模川  
ふれあい科学館  
圏央道 相模原愛川IC 国道129号 上溝バイパス 県道54号

■ 入館料金 (税込) 平成28年4月1日に料金改定。

区分	個人	年間パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	390円	1,170円	310円
小人 (小・中学生)	130円	390円	100円
65歳以上※	190円	570円	150円
幼児 (小学校就学前)			
障害者と同伴者1名※	無料	無料	無料
ひとり親家族等※			

※については、入館時に証明できる各種証明書のご提示が必要です。  
◆年間パスポートの有効期限は、発行日から1年間となります。  
申請時に写真を撮影します。

お得な年間パスポート

年間パスポートなら3回分の料金の  
1年間何度でもご入館いただけます。



- 開館時間 9:30 ~ 16:30  
イベント開催等により営業時間変更の場合あり
- 休館日 月曜日 (月曜日が祝日等の場合は開館)  
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション  
【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種類：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：平成26年3月10日 登録の有効期限の末日：平成31年3月9日 動物取扱責任者の氏名：竹本 淳史



相模川ふれあい科学館  
アクアリウムさがみはら

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1  
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665  
<http://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館

検索